

## 60101

### 情報処理演習Ⅰ

S / W 齋藤敏之 川口隆雄 豊田 薫 東 隆史 坂本示洋 塚原和人

〔授業題目〕 パソコンの基礎

〔概要〕 この科目は、受講者が在学中または社会人になってから役立つ基礎的な情報処理能力を養うことを目標とする。そのため、高等学校で学習してきた情報処理の技能を基にしてワープロソフトによるビジネス文書作成やレポート作成、またプレゼンテーションソフトによる発表資料の作成など情報処理の基礎的能力を高めるような内容の授業計画を作成する。授業形態は、講義とパソコンを使った演習で、少人数のきめ細かい指導によって実技が身につくよう配慮する。「情報処理演習Ⅰ」は、パソコン利用の基礎能力向上に努める。

〔到達目標〕 ワープロソフト Word によるビジネス文書作成・レポート作成能力およびプレゼンテーションソフト PowerPoint による発表資料の作成能力を養う。

〔授業計画〕

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 1 Word の基本操作、文字の入力 | 9 レポート作成 (2)            |
| 2 ビジネス文書の基礎知識      | 10 図形描画の利用              |
| 3 文書の編集 (1)        | 11 Word まとめ             |
| 4 文書の編集 (2)        | 12 PowerPoint の基本操作     |
| 5 表作成              | 13 PowerPoint による発表資料作成 |
| 6 表の編集 (1)         | 14 まとめの問題               |
| 7 表の編集 (2)         | 15 定期試験と解説              |
| 8 レポート作成 (1)       |                         |

〔テキスト〕 『情報処理演習Ⅰ』 (FOM 出版)

〔参考文献〕 大槻有一郎『ひと目でわかる Microsoft Office Word 2003』 (日経 BP ソフトプレス) 2003  
堀池裕美『ひと目でわかる Microsoft Office PowerPoint 2003』 (日経 BP ソフトプレス) 2003

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 60 %、定期試験 40 %

## 60102

### 情報処理演習Ⅱ

S / W 齋藤敏之 塚原和人

〔授業題目〕 パソコンの応用

〔概要〕 この科目は、受講者が在学中または社会人になってから役立つデータ処理能力を養うことを目標とする。そのため、高等学校で学習してきた情報処理の技能を基にして表計算ソフトのデータ処理 (データ集計・グラフ作成・データベース) 機能によりビジネス資料作成やレポート資料作成などデータ処理の能力を高めるような内容の授業計画を作成する。授業形態は、講義とパソコンを使った演習で、少人数のきめ細かい指導によって実技が身につくよう配慮する。「情報処理演習Ⅱ」は、パソコン利用の応用能力向上に努める。

〔到達目標〕 表計算ソフト Excel によるデータ処理能力およびビジネス資料・レポート資料作成能力を養う。

〔授業計画〕

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 1 Excel の基本操作、データの入力 | 9 グラフ (2)      |
| 2 表計算の基礎             | 10 グラフを使った資料作成 |
| 3 表の編集 (罫線と書式)       | 11 グラフの総合問題    |
| 4 計算式の入力と集計計算        | 12 データベース (1)  |
| 5 関数 (1)             | 13 データベース (2)  |
| 6 関数 (2)             | 14 まとめの問題      |
| 7 関数を含む復習問題          | 15 定期試験と解説     |
| 8 グラフ (1)            |                |

〔テキスト〕 『情報処理演習Ⅱ』 (FOM 出版)

〔参考文献〕 brain gear factory『ひと目でわかる Microsoft Office Excel 2003』 (日経 BP ソフトプレス) 2003

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 60 %、定期試験 40 %

### 60103

#### 数学演習 I

S 土谷幸久

〔授業題目〕 文章問題、証明、関数

〔概要〕 本授業科目は、文章問題、証明、関数に焦点を絞り、将来役立つ数学的発想・素養を養うことを目的とする。それは、前者は不慣れな学生もいることと、後者2つは高校数学の柱の1つだからである。毎回濃度計算などを選び、毎回完結方式で行う。

〔到達目標〕 毎回変わるテーマに対して、慣れる・解けることを目標にする。そのためには多量の問題を各自が自力で解かなければならない。

〔授業計画〕

1 2次関数の最大最小	6 損益算	11 集合
2 2次関数と2次方程式	7 速度算	12 命題
3 1次不等式2次不等式	8 流水算	13 鶴亀算
4 濃度	9 順列・組合せ	14 割合・比
5 仕事算	10 虫食い算	15 推論

〔テキスト〕 プリント

〔参考文献〕 『「数検」問題集3級』『「数検」問題集2級』『「数検」問題集準1級』など

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 100%

### 60104

#### 数学演習 II

S 豊田 薫

〔概要〕 社会人に求められる基本的な“数学力”の育成をめざします。そのため発表を伴う、演習中心の授業を行います。積極的な取り組みを通じて、問題を解く楽しさを味わっていただきたいと考えます。

〔到達目標〕 社会人になるための数学の基礎学力を培う。

〔授業計画〕

1 5級1次 計算技能検定1～20	9 3級1次 計算技能検定1～10
2 5級1次 計算技能検定21～41	10 3級1次 計算技能検定11～20
3 5級2次 数理技能検定1～20	11 3級2次 数理技能検定1～10
4 5級2次 数理技能検定21～39	12 3級2次 数理技能検定11～20
5 4級1次 計算技能検定1～19	13 3級2次 数理技能検定21～30
6 4級1次 計算技能検定20～38	14 3級2次 数理技能検定31～40
7 4級2次 数理技能検定1～20	15 定期試験
8 4級2次 数理技能検定21～40	

〔テキスト〕 初回の授業で指示、プリント等

〔参考文献〕 (財)日本数学検定協会著『数検の完全対策〈3～5級〉』(日本実業出版社)

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、平常点(小テスト含む) 50%

### 60104

#### 数学演習 II

W 斎藤敏之

〔授業題目〕 基礎数学

〔概要〕 高等学校で学習してきた基礎数学をさらに確実なものとし、また社会人として仕事をするときに生じる、問題解決のための数的処理能力を高める。授業形態は、プリントを中心とした演習であり、応用力向上に努める。

〔到達目標〕 受講者が在学中または社会人になってから役立つ基礎的な数学的能力を養う

〔授業計画〕

1 小数・分数の計算とその応用	6 場合の数	12 応用問題(1)
2 単位の変換とその応用	7 平方根を含む計算	13 応用問題(2)
3 図形と面積・表面積と体積	8 文字式と方程式	14 応用問題(3)
4 三角形の合同と相似	9 連立一次方程式	15 定期試験
5 図形と角度	10 二次方程式	
	11 不等式	

〔テキスト〕 なし(プリント使用)

〔参考文献〕 (財)日本数学検定協会著『数検の完全対策(3～5級)』(日本実業出版社)

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60%、小テスト・課題 40%

## 60105

### 数学演習Ⅲ

W 豊田 薫

〔概要〕 「数学演習Ⅰ・Ⅱ」の内容を超える数学に触れ、知識を広げます。また多くの演習問題に取り組むことにより、その定着を図るとともに応用力を養います。

〔到達目標〕 社会人として必要な数学の基礎知識と応用力を培う。

〔授業計画〕

1 数・文字式・関数	6 指数関数・対数関数	11 ベクトル (1)
2 式の計算	7 微分 (1)	12 ベクトル (2)
3 2次関数とその応用	8 微分 (2)	13 行列 (1)
4 三角関数 (1)	9 積分 (1)	14 行列 (2)
5 三角関数 (2)	10 積分 (2)	15 定期試験

〔テキスト〕 『数学入門』橋口秀子・星野慶介・山田宏文共著 (学術図書出版社)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習・発表・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、平常点 (演習・発表を含む) 50 %

## 60105

### 数学演習Ⅲ

S 斎藤敏之

〔授業題目〕 文系学生のための大学基礎数学

〔概要〕 この科目は、受講者が在学中または社会人になってから役に立つ基礎的な数学的能力を養うことを目標とする。そのため、高等学校で学習してきた基礎数学をさらに確実なものとし、また社会人になってから仕事上生じる問題を解決するときに必要な、数的処理の能力を高めるような内容を選んでいる。授業はテキストの問題を解答していく演習を中心とした形態とする。また少人数の指導によって学生の能力差に対応する。

〔到達目標〕 「数学演習Ⅰ・Ⅱ」の内容をさらに充実させ、数学についての基礎知識と能力の完成度を向上させる。

〔授業計画〕

1 数・文字式・関数	6 指数関数・対数関数	11 ベクトル (1)
2 式の計算	7 微分 (1)	12 ベクトル (2)
3 2次関数とその応用	8 微分 (2)	13 行列 (1)
4 三角関数 (1)	9 積分 (1)	14 行列 (2)
5 三角関数 (2)	10 積分 (2)	15 定期試験

〔テキスト〕 橋口秀子・星野慶介・山田宏文共著『数学入門』(学術図書出版社)

〔参考文献〕 適宜授業中に指示する

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、平常点 (演習・発表を含む) 50 %

## 60106

### 生命の科学

W 林田嘉朗

〔授業題目〕 いのちのはじまりといのちのつながり

〔概要〕 生体を構成する基本的な物質であるタンパク質・糖質・脂質・核酸の化学構造と化学的性質・機能について、化学進化を絡めて解説し、生命は数十億年の進化を経てえられたかけがえのないものであることを認識させる。さらに遺伝情報の発現、物質の代謝による生命維持のしくみ、および生命活動の調節についても述べる。

〔到達目標〕 生命現象の基本知識の習得を目指す。

〔授業計画〕

1 生命誕生	6 神経の働き	11 免疫
2 生命現象	7 感覚と運動	12 がんと幹細胞
3 身体の構造と機能：細胞	8 ホルモンとホメオスタシス	13 老化
4 組織・器官	9 増殖と分化	14 生命科学と健康
5 代謝：タンパク質	10 遺伝と遺伝子	15 定期試験

〔テキスト〕 小林浩明、江島洋介、佐伯修一その他著『イラスト生命の科学』(東京教学社)

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・ビデオ

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %

**60106**  
**生命の科学**

S / W 渡邊隆司

〔授業題目〕 生命の成り立ちと生命科学の応用

〔概要〕 今世紀は生命科学が主役であり、動植物の生きる仕組みを分子遺伝子レベルで講述する。他方生命科学は生命工学へと進展し、病気の診断治療、食生活や地球環境まで密接に関与することを述べる。

〔到達目標〕 生命科学の未来像と生命の尊さを理解させる。

〔授業計画〕

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1 生命誕生の諸説と進化の歴史   | 9 バイオ技術の進歩と未来 (2) |
| 2 生命に関わる倫理        | 10 社会に役立つ生命科学 (1) |
| 3 多様な生物と無生物の異同性   | 11 社会に役立つ生命科学 (2) |
| 4 生物のエネルギー獲得と防御   | 12 地球環境に関わる生命科学   |
| 5 脳の働きと情報伝達系      | 13 未来の医療と生命工学の役割  |
| 6 情報の源「遺伝子」について   | 14 宇宙開発と生命科学      |
| 7 生命活動を支える蛋白質と核酸  | 15 定期試験           |
| 8 バイオ技術の進歩と未来 (1) |                   |

〔テキスト〕 工藤佳久、都筑幹夫著『生命科学がわかる』（技術評論社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

**60107**  
**環境の科学**

S / W 蓮間忠芳 江頭靖幸

〔授業題目〕 自然環境を科学的に理解する

〔概要〕 地球上には様々な環境に様々な生物が生活しているが、それらは生産者、消費者、分解者に大別される。これらの構成要素は食物連鎖を介して密接にかかわりあっている。これらの関係を科学的に分析するとともに、動的な関係、連合関係等も考える。また地球という環境の中で生活する結果、種々の影響を及ぼしていることも理解する。

〔到達目標〕 自然界で生活するヒトを含む生物は、それを取り巻く無機質な環境や他の生物と、深い関係を持ちながら生活している。本講義では、生物とそれを取り巻く環境との係わり合いと、生物が環境に及ぼす影響について考えることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1 生命の誕生と進化          | 9 環境問題 (1)、廃棄物         |
| 2 地球と環境             | 10 環境問題 (2)、大気、土壌、水、ヒト |
| 3 生物の環境への適応         | 11 環境と健康 (1)           |
| 4 植物群落              | 12 環境と健康 (2)           |
| 5 生態系 (1)           | 13 環境と健康 (3)、小テスト      |
| 6 生態系 (2)           | 14 まとめ、演習              |
| 7 自然環境の保全 (1)       | 15 定期試験、解説             |
| 8 自然環境の保全 (2) エネルギー |                        |

〔テキスト〕 配布資料及び講義中に紹介する。

〔参考文献〕 適宜紹介。ロバート・アーリック著『怪しい科学の見抜きかた』

〔授業形態〕 講義・実習・対話・双方向授業・DVD など

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、レポート・小テスト 30 %

**60107**  
**環境の科学**

W 江頭靖幸

〔授業題目〕 公害から地球環境問題まで

〔概要〕 大概の社会問題は人間同士の問題ですが、環境問題には「自然」が絡んでいます。自然を無視して問題は解決しません。環境問題での自然と人間の関わり方を科学の視点から解説します。

〔到達目標〕 自然には人間の価値判断とは独立のルールがあることを理解し、環境問題に関する科学的な情報に批判精神をもって対応する。

〔授業計画〕

- |                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| 1 地球の大きさと世界の中の自分 (1) | 9 身近な環境問題 (1)              |
| 2 " (2)              | 10 " (2)                   |
| 3 " (3)              | 11 " (3)                   |
| 4 " (4)              | 12 " (4)                   |
| 5 公害問題から地球環境問題へ (1)  | 13 環境問題について正しい判断をするために (1) |
| 6 " (2)              | 14 " (2)                   |
| 7 " (3)              |                            |
| 8 " (4)              | 15 定期試験                    |

〔テキスト〕 指定なし。

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

## 60108 化学の世界

S / W 渡邊隆司

〔授業題目〕 人体と生命は化学が基本である。

〔概要〕 人の健康に関連する専門分野を学ぶためには、生体についてそれらの構成物質の化学的成り立ちや性質を理解することが基礎になる。本講義では無機物や有機物を構成する元素や分子になったものの性質から始め、人体を構成するたんぱく質・核酸などの構造的な特徴、さらには酵素の反応の仕組みなどを述べる。

〔到達目標〕 ヒトの生命と健康維持の基礎は無機・有機化学が基本となっていることについて理解させることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 元素、原子、分子について           | 9 高次構造と物性 (2)            |
| 2 化学結合 (イオン結合、共有結合、配位結合) | 10 人体構造と化学 (1)           |
| 3 無機化学                   | 11 人体構造と化学 (2)           |
| 4 有機化学 (1)               | 12 化学と生命 (1)             |
| 5 有機化学 (2)               | 13 化学と生命 (2)             |
| 6 化学反応と平衡                | 14 化学の応用 (レーザー、ナノテクノロジー) |
| 7 酸化・還元反応                | 15 定期試験                  |
| 8 高次構造と物性 (1)            |                          |

〔テキスト〕 植田豊甫著『化学の世界』(共立出版社)

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

## 60109 物理の世界

S 豊田 薫

〔概要〕 今日の技術や人類共通の課題などを視野に入れながら、“物理の世界”を紹介します。具体的には古典物理、量子物理、複雑系物理の中から話題を拾います。学習内容の定着のために、確認テストなども取り入れる予定です。

〔到達目標〕 物理学の基本的な知識を身につけ、科学的思考力を培う。

〔授業計画〕

- |                        |                              |
|------------------------|------------------------------|
| 1 序論—科学とは何か?           | 9 量子物理 (2) : 光               |
| 2 古典物理 (1) : 運動の解釈     | 10 量子物理 (3) : 原子・分子          |
| 3 古典物理 (2) : 運動の法則と逆問題 | 11 複雑系物理 (1) : フラクタルと空間次元の拡張 |
| 4 古典物理 (3) : 次元と単位     | 12 複雑系物理 (2) : べき乗則          |
| 5 古典物理 (4) : 種々の運動     | 13 複雑系物理 (3) : カオスと非決定論      |
| 6 古典物理 (5) : エネルギー     | 14 まとめ                       |
| 7 古典物理 (6) : エントロピー    | 15 定期試験                      |
| 8 量子物理 (1) : 二重性       |                              |

〔テキスト〕 プリント配布

〔参考文献〕 『人物で語る物理入門 (上)、(下)』 米沢富美子著 (岩波新書)、その他 (講義の中で適宜紹介)

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論・AV 機器使用

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、平常提出物 (レポートを含む) 50 %

60109  
物理の世界

S / W 宮永健史

〔授業題目〕 生活の中の物理

〔概要〕 身の回りの起こる様々な自然現象がなぜ起こるのか、日常目にする道具や機械がなぜそのような働きをするのか、について講義と演示実験により解説する。高校での物理の履修を前提としない。

〔到達目標〕 物理学の基礎を理解し、それをもとに様々な自然現象や道具・機械の働きを説明できるようになること。

〔授業計画〕

- |  |   |
|--|---|
| 1 授業計画説明。時間、長さ、質量の単位について。                | 9 波動現象1 (音は波である。声を聞いて誰の声か判断できるのはなぜか。)         |
| 2 力学現象1 (やじろべえはなぜ倒れない。)                  | 10 波動現象2 (光は波である。目、レンズ、望遠鏡、光ケーブルなどの働き。)       |
| 3 力学現象2 (電車が急ブレーキをかけると乗客が将棋倒しになるのはなぜか。)  | 11 波動現象3 (色はなぜ見える。虹はなぜできる。テレビ画面の色はどのようにして作る。) |
| 4 力学現象3 (人工衛星はなぜおちてこない。)                 | 12 電磁気現象1 (静電気はなぜおこる。いろいろ電気製品の働き。)            |
| 5 力学現象4 (荷物を持ち上げるのに、てこを使ってエネルギーを節約できるか。) | 13 電磁気現象2 (磁石のふしぎ。磁気カードのしくみ。)                 |
| 6 力学現象5 (鉄の船がなぜ水に浮く。飛行機はなぜ空に浮かぶ。)        | 14 微視的世界の現象 (光は波でもあり粒子でもある。蛍光灯はなぜ光る。)         |
| 7 熱現象1 (良い機械があればいくらでも低い温度を作ることができるか。)    | 15 定期試験                                       |
| 8 熱現象2 (エネルギーを与えなくても動き続ける機械を作ることができるか。)  |   |

〔テキスト〕 指定しない

〔参考文献〕 授業の中で適宜紹介する

〔授業形態〕 講義・対話・演示実験

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、小テスト・レポート等 50 %

60110  
地球と宇宙

S / W 斎藤敏之

〔授業題目〕 地学入門

〔概要〕 地球科学や宇宙科学はそれだけで閉じている学問分野ではなく、他ジャンルの物理・化学と密接に関連している。そのため本講義では、幾つかのトピックス (例えば、地球の内部構造、地球の歴史、太陽系、恒星、宇宙の生い立ち等) に内容を絞っている。そして文系の学生には馴染みの薄い数学・物理的基礎事項から始めて、地球・宇宙科学を俯瞰できるような、そういう考え方を身につけることを目的とする。また、講義を中心とするが、視覚的に理解しやすいようにスライドやビデオを援用する。

〔到達目標〕 地球科学や宇宙科学について論理的思考能力を身につける。

〔授業計画〕

- |               |              |             |
|---------------|--------------|-------------|
| 1 序論          | 6 ウィルソンサイクル  | 11 太陽と太陽系   |
| 2 地球を測る       | 7 プルームテクトニクス | 12 星と進化     |
| 3 大陸移動説       | 8 地球史 (1)    | 13 銀河と宇宙膨張  |
| 4 地震波と地球の内部構造 | 9 地球史 (2)    | 14 地球環境システム |
| 5 アイソスタシー     | 10 地球史 (3)   | 15 定期試験     |

〔テキスト〕 『徹底図解 地球のしくみ』 (新星出版社)

〔参考文献〕 適宜授業中に指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

60111

先端技術（集中講義 3人リレー） S 林田嘉朗

〔授業題目〕 病気治療の先端

〔概要〕 日常的な病気の治療法に先端技術がどのように関わっているかを、症状としての痛み、アトピー性皮膚炎、がん治療などを例に解説する。

〔到達目標〕 先端技術と病気治療法の進歩との関係を理解する。

〔授業計画〕

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 先端医療：痛みをいやす   | 3 先端医療：がん治療とテスト |
| 2 先端医療：アトピー性皮膚炎 |                 |

〔テキスト〕 配布資料

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・ビデオ

〔成績評価の方法〕 小テスト 20%、平常点 80%

60111

先端技術（集中講義 3人リレー） S 福本将彦

〔授業題目〕 先端の医療とその応用

〔概要〕 日夜進化する工学は、産業を創生し、世界に貢献してきた。しかし、20世紀の科学が残した爪痕を冷静に見つめ直し、反省を加えたい。21世紀の科学技術の将来を解説する。エネルギー、ナノ・テクノロジー、バイオ・テクノロジー、コンピュータ・サイエンス、量子科学に関する最新情報について解説し、より良い社会構築を考える。

〔到達目標〕 (オムニバス方式) 様々な科学技術の成果や動きに触れることで、地球を救い人類の未来に希望を与えるのも科学技術だということを学んで戴きたい。日本人の功績についても理解を深め、未来への自身につなげて戴きたい。

〔授業計画〕

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 4 エネルギー        | 12 量子科学          |
| 5 ナノ・テクノロジー    | 13 日本人のノーベル賞研究   |
| 6 バイオ・テクノロジー   | 14 日本の10大発明      |
| 7 コンピュータ・サイエンス | 15 発明を生み出す特許とテスト |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義形式。資料をプロジェクトで提示しながら解説する形態（「パワーポイント」搭載ノートパソコンの使用）を予定。

〔成績評価の方法〕 最後の15分小テスト 20%、平常成績 80%

60111

先端技術（集中講義 3人リレー） S 村上秀明

〔授業題目〕 先端の医療とその応用

〔概要〕 先端医療の分野では技術の進歩とあいまって、心臓や肝臓の移植、遺伝子治療、再生医療など新しい医療技術が臨床応用されるようになってきた。この講義では先端医療の現状を理解させ、さらに、脳死からの臓器移植では人工呼吸器の取り外し、クローン存在、脳死の判定や、移植など倫理に関する問題も考察する。先端工学の分野では、高精度な機能を物理学、化学、生物学という科学全体の力を集結した原子・分子レベルから精密機械等の工学領域をわかりやすく解説する。

〔到達目標〕 (オムニバス方式) 最近の先端医療の研究の紹介と今、実現可能となっている遺伝子治療と臓器移植および再生医療を解説し、医学が人に貢献するための基本は何なのかを考察させ、現在医学が単一の専門分野だけでは成り立たないほど、難病や重症の外科後遺症の患者が増えている多方面の専門が集結して高度医療技術が成立していることを理解させる。

〔授業計画〕

- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| 8 最近の疾病の問題点 | 10 最先端の治療方法       |
| 9 最新の診断技術   | 11 遺伝子治療と再生医療とテスト |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 (15分間の) 小テスト 20%、平常成績 80%

60121  
英語 I

S 紅子メイソン

〔授業題目〕 基礎能力を養う I

〔概要〕 リスニングの能力を養成すると同時に英語の読み書きの能力を高めることによって英語コミュニケーションの実効を期する。教材は誰でもが親しみを感じる民話を用いる。

〔到達目標〕 大学入学時まで必要とされる英語の基礎知識およびリスニングやリーディングなどの技能を再点検し、英語によるコミュニケーションができるよう大学初級レベルから中級レベル程度の英語を聞き、英文を読みこなす力を養う。同時に単語を 300 から 500 習得する。

〔授業計画〕

第 1 回 英語 I、II のコース内容について、英語習得理論と実践について簡単に説明し、授業の手順についてオリエンテーションをする。英語による読書は家庭学習だが、一日目の授業では、宿題の仕方を指導する。英語の本を 1 冊（600 語レベル）読み読書記録記入方法を指導する。家庭学習の読書量は 1 学期に 1000 ページ。自分の好きなジャンルを自由に選択するが、全員が 200 ～ 600 語レベルの読書教材から開始し、学期末までに 1100 語レベル（初級）まで読めるようになるのが目標。

第 2 回 聴解力養成のため、授業では英語で民話（Lazy Jack）の語り聞かせをする。話の中に出てくる単語を毎回 30 ～ 50 習得する。民話を聞いたあと本文を読む。カッコ内は民話のテーマ。読書ノートは、監督と指導のため、毎週提出する。

第 3 回 以下同様。民話の題名：The North Wind

〔テキスト〕 Free Voluntary Reading and Fairy/Folk Tale Listening（青山社）

〔参考文献〕 [www.benikomason.net](http://www.benikomason.net) [www.benikomason.net/students](http://www.benikomason.net/students) プリント配布

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

and the Sun（やさしさ）

第 4 回 The Golden Touch（金欲）、授業の始めに先週の民話に出た単語の復習テストを毎回実施する。

第 5 回 How Juan Married a Princess（機転をきかせる）

第 6 回 The Tiger's Whisker（忍耐）

第 7 回 The Golden Swan（貧欲）

第 8 回 Daniel in the Lion's Den（信仰）

第 9 回 The Spoiled Child（しつけ）

第 10 回 The Woman of Calamity（不幸）

第 11 回 The Love Crystal（自己中心）

第 12 回 Old Sultan（友情）

第 13 回 God's Tood（貧困）

第 14 回 The Toads and Diamonds（褒美と罰）

第 15 回 期末テスト（作文、読解、単語テストを実施して、学力の伸びを評価する）

60122  
英語 II

W Thomas M. Pendergast

〔授業題目〕 会話の輪（Conversation Circle）

〔概要〕 数人の学生は机を使わず輪を作って向き合って椅子に座る。10 分の間に自由に言いたいことを言う。日本語でも良いし、英語でも良い。ただし、教師はそれを聴いて簡単な言いやすい英語に直す。その英語を学生は「一口ずつ」繰り返して録音する。その録音を先生が分析や説明して練習させる。その知識を取り入れてまた会話を進める。

〔到達目標〕 学生はいくつか英語で言いたいと思うことを言える様になる。また英語でコミュニケーションが出来るという事に自信が出来る。英語で表現する恐怖感が和らぐ。

〔授業計画〕

1 レベルチェック・教授法説明	5 その繰り返し	11 その繰り返し
2 会話の輪・その分析・その練習	6 その繰り返し	12 その繰り返し
3 その繰り返し	7 その繰り返し	13 その繰り返し
4 その繰り返し	8 その繰り返し	14 その繰り返し
	9 その繰り返し	15 期末試験
	10 その繰り返し	

〔テキスト〕 なし（学生は自分のテキストを作る）

〔参考文献〕 図書館にある Graded Readers

〔授業形態〕 双方向授業

〔成績評価の方法〕 期末試験 50 %、平常点 50 %

60122  
英語Ⅱ

W 紅子メイソン

〔授業題目〕基礎能力を養うⅡ

〔概要〕コミュニケーション能力の涵養に努め、リスニングやリーディングなどの技能を高めると共に、英語らしい発音の仕方と自然なスピードで話される英語聴解力の向上を図る。特に、アクセント、リズム、イントネーションを重視し、各自が理解した内容を日本語または簡単な英語でまとめられるよう指導する。また、的確なコミュニケーション能力の育成に努める。

〔到達目標〕多様化する現代社会のニーズに応えられるよう英語力の養成を図る。学期の目標は、自然のスピードで話される英語を理解し、300から500の単語習得と、70ページほどの中級レベル（1600語）の読書教材を2時間程度（分速100語の読書速度）で読書できるようになることが目標。また、読書を通して、より流暢に（最初から比べて3倍）より正確な文法（20%の伸び）で物語のあらすじを英語で書けるようになることが目標。

〔授業計画〕

- |   |  |
|---|--|
| 第1回 今学期もインプット（聞く、読む）中心の授業を続ける。宿題の読書量は一学期に1000ページ。 | 第11回 読売新聞社説からの英文記事（予定）：What made a 12-year old kill?（12歳の犯罪の深刻な衝撃） |
| 第2回 The Love and Sorrow to Share（虐待）              | 第12回 Secure funds for pension system（政治は安定財源への道筋を示せ）               |
| 第3回 Dong Yong's Wife（背信）                          | 第13回 N.Korea N-Threat underrated（北朝鮮の各放棄を反駁の軸に据えよ）                 |
| 第4回 The Foxy Lady（欺き）                             | 第14回 Gallows only fitting choice（残忍な犯行に下された極刑判決）                   |
| 第5回 Truth and Falsehood（真実と欺瞞）                    | 第15回 定期試験（作文、読解、単語テストを実施して、学力の伸びを評価する）                             |
| 第6回 Good News or Bad?（見方）                         |  |
| 第7回 The Wife's Portrait（愛と協力）                     |  |
| 第8回 The Robber Bridegroom（恐怖）                     |  |
| 第9回 The True Hero（本当の英雄）                          |  |
| 第10回 William Tell（勇気）                             |  |

〔テキスト〕英字新聞を一部使用

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験100%

60150  
日本国憲法

S / W 稲葉実香

〔授業題目〕日本国憲法

〔概要〕憲法を作り出した歴史とその理念、その実現としての現行憲法を解説する。将来ありうべき憲法改正にそなえ、日本の新しい国のかたちを探る上での拠り所とするために、欧米の憲法をも視野に入れて、現在の民主主義国家に共通する制度、人権保障のために採用されるさまざまな制度を紹介してゆく。

〔到達目標〕およそ憲法たるもののもつ理念や目的を理解し、それをもとに日本の政治制度や人権保障システムがどんな目的をもってどのように構築されたのかを理解し、さらなる改善を提案できる能力を養成する。

〔授業計画〕

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| 1 憲法とは何か             | 9 統治機構④ 天皇  |
| 2 立憲民主主義 ―権力分立・責任政治― | 10 人権の歴史と発展 |
| 3 国民主権と代表民主制         | 11 人権保障の方法  |
| 4 議院内閣制と大統領制         | 12 人権保障の限界  |
| 5 選挙制度               | 13 憲法保障制度   |
| 6 統治機構① 国会           | 14 裁判員制度    |
| 7 統治機構② 内閣           | 15 定期試験     |
| 8 統治機構③ 裁判所          |             |

〔テキスト〕初宿正典他『目で見る憲法（第3版）』（有斐閣、2007年）

〔参考文献〕小嶋和司・大石真『憲法概観（第6版）』（有斐閣双書、2001年）  
大沢秀介編『確認憲法用語300』（成文堂、2008年）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕平常点30%、定期試験70%

60150

日本国憲法

W 奥村公輔

〔授業題目〕 基本的人権と民主政治の仕組み

〔概要〕 憲法は、個人の人権を保障し、国の統治機構のあり方を定めている。その憲法の内容を学習しながら、具体的事例の検討を通じて、憲法が我々の生活に密接不可分なものであることを理解する。

〔到達目標〕 憲法の基礎的知識を習得し、具体的事例を分析する能力を養い、憲法の問題点を発見する能力を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 1 憲法とは何か               | 9 社会権          |
| 2 日本国憲法の制定と基本原理        | 10 参政権         |
| 3 人権享有主体               | 11 国会と立法       |
| 4 幸福追求権                | 12 内閣と行政       |
| 5 平等権                  | 13 裁判所と司法      |
| 6 精神的自由 (1) —思想・良心の自由— | 14 財政民主主義・地方自治 |
| 7 精神的自由 (2) —表現の自由—    | 15 定期試験        |
| 8 経済的自由                |                |

〔テキスト〕 初宿正典・大沢秀介・高橋正俊他、『目で見る憲法 (第3版)』、有斐閣

〔参考文献〕 デイリー大法 (2009 (平成21年版))

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

60150

日本国憲法

S / W 二宮貴美

〔概要〕 憲法のあり方については様々な意見があって当然だが、憲法に関する基礎知識を備えていることが前提である。自分自身の問題として、現代社会における憲法の意義を考えてみたい。

〔到達目標〕 新聞やTVにおいて報道される事件など具体的な例を通して、憲法を自分自身の問題として捉え、自ら考える力を身につける。

〔授業計画〕

- |                |                                 |
|----------------|---------------------------------|
| 1 憲法とは何か       | 10 生存権                          |
| 2 基本的人権        | 11 教育を受ける権利                     |
| 3 民主主義と政治のあり方  | 12 労働基本権                        |
| 4 法の下での平等      | 13 幸福追求権                        |
| 5 表現の自由 (1)    | 14 平和主義                         |
| 6 表現の自由 (2)    | 15 定期試験                         |
| 7 信教の自由と政教分離原則 | 備考 新聞で報道される重大事件を取り上げるこ<br>ともある。 |
| 8 経済活動の自由      |                                 |
| 9 自己決定権        |                                 |

〔テキスト〕 戸松秀典、『ブレップ憲法 第3版』、弘文堂

〔参考文献〕 講義時に指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 論述試験 80 %、レポート等 20 %

60151

法学 I (国際法を含む)

S 奥村公輔

〔授業題目〕 社会生活における法の役割

〔概要〕 人間が共同生活をする上で、一定のルールが必要である。その代表的なものが法であり、その法の体系を俯瞰しながら、現実社会の中で法がどのような役割を果たしているかを学習する。

〔到達目標〕 法の基本構造を理解し、その問題点を発見し、実社会の仕組みの中で応用できる能力を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 法とは何か                    | 8 家族生活と法                 |
| 2 法の解釈                     | 9 労働と法                   |
| 3 裁判の仕組み                   | 10 犯罪と法 (1) —犯罪の成立要件—    |
| 4 国家と法 (1) —憲法の基本原理—       | 11 犯罪と法 (2) —刑事手続—       |
| 5 国家と法 (2) —国の統治機構—        | 12 裁判員制度                 |
| 6 財産関係と法 (1) —取引の主体と客体—    | 13 国際社会と法 (1) —国際法とは何か—  |
| 7 財産関係と法 (2) —取引の手段としての契約— | 14 国際社会と法 (2) —国際法と国際紛争— |
|                            | 15 定期試験とまとめ              |

〔テキスト〕 伊藤正巳・加藤一郎 編、『現代法学入門 (第4版)』、有斐閣

〔参考文献〕 デイリー六法 (2009 (平成21年版))

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

## 60151

### 法学Ⅰ（国際法を含む）

S 二宮貴美

〔授業題目〕 裁判員になった時のために

〔概要〕 裁判員制度の導入を控え、法に関する知識がますます重要になっている。裁判員として関わることになるかもしれない刑事裁判の仕組み、重要となるであろう報道の自由などについて解説する。

〔到達目標〕 裁判員制度についての関心を元に、社会生活における法の役割について考える力を身につける。

〔授業計画〕

- |            |                                 |
|------------|---------------------------------|
| 1 法とは何か    | 10 自己決定権                        |
| 2 三権分立     | 11 信教の自由と内心の自由                  |
| 3 裁判のしくみ   | 12 生存権                          |
| 4 刑事被告人の権利 | 13 労働基本権                        |
| 5 裁判員制度    | 14 国際社会と日本                      |
| 6 犯罪とは何か   | 15 定期試験とまとめ                     |
| 7 刑罰の意味    | 備考 新聞で報道される重大事件を取り上げるこ<br>ともある。 |
| 8 報道の自由    |                                 |
| 9 知る権利     |                                 |

〔テキスト〕 佐藤幸治、鈴木茂嗣、田中成明、前田達明、『法律学入門 第3版補訂版』、有斐閣

〔参考文献〕 講義時に指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 論述試験 80%、レポート等 20%

## 60152

### 法学Ⅱ

W 奥村公輔

〔授業題目〕 社会生活における法の役割

〔概要〕 人間が共同生活をする上で、一定のルールが必要である。その代表的なものが法であり、その法の体系を俯瞰しながら、現実社会の中で法がどのような役割を果たしているかを学習する。

〔到達目標〕 法の基本構造を理解し、その問題点を発見し、実社会の仕組みの中で応用できる能力を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| 1 法とは何か                  | 8 家族生活と法               |
| 2 法の解釈                   | 9 労働と法                 |
| 3 裁判の仕組み                 | 10 犯罪と法（1）—犯罪の成立要件—    |
| 4 国家と法（1）—憲法の基本原理—       | 11 犯罪と法（2）—刑事手続—       |
| 5 国家と法（2）—国の統治機構—        | 12 裁判員制度               |
| 6 財産関係と法（1）—取引の主体と客体—    | 13 国際社会と法（1）—国際法とは何か—  |
| 7 財産関係と法（2）—取引の手段としての契約— | 14 国際社会と法（2）—国際法と国際紛争— |
|                          | 15 定期試験とまとめ            |

〔テキスト〕 伊藤正巳・加藤一郎 編、『現代法学入門（第4版）』、有斐閣

〔参考文献〕 デイリー六法（2009（平成21年版））

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100%

## 60152

### 法学Ⅱ

W 二宮貴美

〔授業題目〕 新聞報道から法律を考える

〔概要〕 法に関する知識がますます重要になっている。社会生活における問題の多くが法律問題として捉えることができるだろう。単に知識だけではなく、具体的な問題解決手段として捉えてみたい。

〔到達目標〕 新聞やTVにおいて、様々な事件が報道されている。法律を身近なものとして捉え、分析し、理解できる力を身につける。

〔授業計画〕

- |             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| 1 法とは何か     | 10 法の下での平等                      |
| 2 隣人との関係    | 11 裁判員制度                        |
| 3 財産相続      | 12 刑事被告人の権利                     |
| 4 再婚禁止期間の問題 | 13 政治のしくみ、三権分立                  |
| 5 戸籍法の問題    | 14 平和主義                         |
| 6 民事裁判のしくみ  | 15 定期試験とまとめ                     |
| 7 プライバシー権   | 備考 新聞で報道される重大事件を取り上げるこ<br>ともある。 |
| 8 自己決定権     |                                 |
| 9 選挙制度と民主主義 |                                 |

〔テキスト〕 佐藤幸治、鈴木茂嗣、田中成明、前田達明、『法律学入門 第3版補訂版』、有斐閣

〔参考文献〕 講義時に指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 論述試験 80%、レポート等 20%

## 60153

### 政治学

S / W 奥西達也

〔授業題目〕 政治についての原理・思想・理論

〔概要〕・〔到達目標〕 本講義では、「政治」についての自立的な理解や判断を行う上で必要な知識や思考の仕方を提示し、社会生活を主体的に生きていく判断基準を形成する一つの契機となることを目指すことを目標とする。また公務員試験への対策にもなるよう考慮されているものである。内容としては「政治」を理解する上で不可欠の政治学的概念や理論をできる限り平明に説明する。とりわけ「政治」における重要なテーマとなる「民主主義」を基軸に、政治思想における主要概念や民主政治を支える諸制度、世論とマスコミ、利益団体、圧力団体、政党の機能、政治過程、選挙と投票行動、官僚制などについての説明、現代政治の構造の解明、議会民主主義がはらむ諸問題の検討といったことについて記述するつもりである。《授業形態》は講義を中心とするが、(受講者の人数にもよるものの) 問いかけ、発言のリクエストなど、講師との対話を混えた双方向のかたちで進めていく。又、公務員試験対策・理解度の把握のために単元終了ごとにチェックシートによるテストを実施する。

〔授業計画〕

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 政治学とは何か          | 9 現代政治と官僚制 (2)     |
| 2 近代民主政治の思想と原理 (1) | 10 政治過程 (1)        |
| 3 近代民主政治の思想と原理 (2) | 11 政治過程 (2)        |
| 4 近代民主政治の思想と原理 (3) | 12 圧力団体と利益団体       |
| 5 権力論 (1)          | 13 政党の機能           |
| 6 権力論 (2)          | 14 世論とマスコミ・選挙と投票行動 |
| 7 リーダーシップ論         | 15 定期試験            |
| 8 現代政治と官僚制 (1)     |                    |

〔テキスト〕 (追って指示する)

〔参考文献〕 授業中適宜指示する

〔授業形態〕 双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、平常点 20%

60154  
経済学 I

S 塚原昭人

〔授業題目〕 ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ /

〔概要〕・〔到達目標〕 本講義では、受講生が連日の新聞・TV等のマスコミを通じて報道される、日本の経済・産業・金融の変革・変遷について、その内容を理解しながら、経済的思考・論理を涵養することを目標とする。そのためには、代表的な経験法則や最新の経済的現象をテーマとしながら、経済学の基礎理論および日本経済の構造変化（産業構造・投資構造・貿易構造）を内容とする授業計画を作成する。授業形態は、講義を中心としながらも、質疑応答・討議の時間を設けた双方向的な授業を行う。さらに、毎回の講義においては、IT技術を駆使した最新の資料・情報データを教材・レジメとして配布する。

〔授業計画〕

- |             |                  |                |
|-------------|------------------|----------------|
| 1 経済生活と経済問題 | 6 「金融」について       | 11 「貯蓄」について    |
| 2 経済循環と経済主体 | 7 「景気循環」について     | 12 「投資」について    |
| 3 「需要」について  | 8 「景気動向」について     | 13 産業構造の変遷について |
| 4 「供給」について  | 9 「所得」「消費」の関係    | 14 日本経済の現況について |
| 5 「貨幣」について  | 10 「総需要」「総供給」の関係 | 15 定期試験        |

〔テキスト〕 適時、プリント・資料等を配布する。

〔参考文献〕 講義の中で指示する。

〔授業形態〕 講義（双方向的授業を指針とする。）

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、平常点 20%

60154  
経済学 I

W 奥西達也

〔授業題目〕 経済学的考え方を学ぶ

〔概要〕・〔到達目標〕 本講義では、受講生が連日の新聞・TV等のマスコミを通じて報道される、日本の経済・金融の変革・変遷について、その内容を理解しながら、経済学思考・論理を涵養することを目標とする。そのためには、代表的な経験法則や最新の経済的現象をテーマとしながら、経済学の基礎理論および日本経済の構造変化（産業構造・投資構造・貿易構造）を内容とする授業を行うつもりである。《授業形態》は、講義を中心としながらも、質疑応答・討議の時間を設けた双方向的な授業を行う。さらに、毎回の講義においては、IT技術を駆使した最新の資料・情報データを教材・レジメとして配布する。

〔授業計画〕

- |                      |                               |
|----------------------|-------------------------------|
| 1 経済とは何か、経済学とは何か     | 10 マクロ経済学②—財政政策と金融政策          |
| 2 経済学の歴史—現実との対話①     | 11 マクロ経済学③—開放経済とマクロ経済学        |
| 3 経済学の歴史—現実との対話②     | 12 経済政策—その有効性：ケインジアン／マネタリスト   |
| 4 経済成長と経済システム①       | 13 日本経済と世界経済の現状と未来①—アジア経済と日本  |
| 5 経済成長と経済システム②       | 14 日本経済と世界経済の現状と未来②—アメリカ経済と日本 |
| 6 ミクロ経済学①—消費者行動      | 15 定期試験                       |
| 7 ミクロ経済学②—企業行動       |                               |
| 8 ミクロ経済学③—市場メカニズム    |                               |
| 9 マクロ経済学①—GDPという経済指標 |                               |

〔テキスト〕（追って指示する）

〔参考文献〕 授業中適宜紹介

〔授業形態〕 双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、平常点 20%

60155  
経済学Ⅱ

W 塚原昭人

〔授業題目〕 経済を学び景気を語る！

〔概要〕・〔到達目標〕 本講義では、受講生が日本経済の現況について、現状把握とそれら一連の技術革新や構造変化に伴う課題の克服について理解を深め、社会人としての勤労観・職業観を涵養することを目標とする。そのためには、マクロ経済学の領域から、「景気循環論」「景気変動論」に関する歴史・理論・政策を展開しながら、わが国の景気基準日付を用いて、戦後から現代に至る日本経済の成長・発展の軌跡について、その解説をふまえた授業計画を作成する。授業形態は、講義を中心としながらも、質疑応答・討議の時間を設けた双方向的な授業を行う。さらに、毎回の講義においては、IT技術を駆使した景気動向に関する経済指標・データを提供する。

〔授業計画〕

- |  |  |
|--|--|
| 1 「日本経済の現況」について  | 9 「景気循環理論」：(4) 経済構造説、(5) 持越費用説                           |
| 2 「経済成長」について   | 10 「景気変動の理論」：(1) 完全な外生理論、(2) 政策好況・政策不況、(3) 心理説、(4) 過剰投資論 |
| 3 「GNP（国民総生産）」から「GDP（国内総生産）」へ                              | 11 「景気変動の理論」：(5) 過少消費税、(6) 不比例説、(7) コストプライス説、(8) 貨幣説     |
| 4 「景気」とは   | 12 「加速度原理」と「乗数効果」について                                    |
| 5 「景気基準日付」について   | 13 「成長と循環の組み合わせ」について                                     |
| 6 「景気動向指数」について   | 14 「望ましい日本の経済発展」について                                     |
| 7 「景気循環の四波（①キチンサイクル、②ジュグラサイクル、③クズネッツサイクル、④コンドラチェフサイクル）について | 15 定期試験  |
| 8 「景気循環理論」：(1) 太陽黒点説、(2) イノベーション説、(3) 更新投資論                |  |

〔テキスト〕 適時、プリント・資料等を配布する。

〔参考文献〕 講義の中で指示する。

〔授業形態〕 講義（双方向授業を指針とする。）

〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、平常成績 20%

60156  
社会学Ⅰ

S 平川 茂

〔授業題目〕 家族と地域社会

〔概要〕 産業構造の変化にともなって、家族とそれを取り巻く地域社会のあり方も大きく変ってきた。その結果として、家族と地域社会は現在どのような問題を抱えているかをくわしく見る。

〔到達目標〕 ①主要概念の理解②社会学の視角の理解③産業構造の変化の理解④家族と地域社会の問題の理解

〔授業計画〕

- |                |                |              |
|----------------|----------------|--------------|
| 1 産業化と近代家族     | 6 夫婦の勢力構造      | 11 地域社会の社会集団 |
| 2 近代家族から現代家族へ  | 7 子どもの社会化と親子関係 | 12 地域社会の階層構成 |
| 3 配偶者選択過程の規定要因 | 8 家族と高齢者       | 13 コミュニティ形成  |
| 4 配偶者選択の日本の特性  | 9 産業化と都市化      | 14 地域社会と家族   |
| 5 夫婦の役割構造      | 10 都市化社会と地域社会  | 15 定期試験      |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 岩上真珠他編 『ソーシャルワーカーのための社会学』（有斐閣）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、平常点 50%

60157  
社会学Ⅱ

W 平川 茂

〔授業題目〕 現代社会の社会問題

〔概要〕 戦後の激しい経済成長とそれともなう生活様式、社会意識のきわめて大きな変化を背景にして、現在さまざまな社会問題が生起している。授業ではその実態をくわしく見る。

〔到達目標〕 ①主要概念の理解②社会問題の分析枠組みの理解③生活様式と社会意識の変化の理解④社会問題の理解

〔授業計画〕

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 経済成長と生活様式の変化  | 9 ドメスティック・バイオレンス |
| 2 経済成長と国民意識の変化  | 10 いじめ           |
| 3 現代社会と科学技術     | 11 不登校           |
| 4 科学技術の進歩と社会の変化 | 12 自殺            |
| 5 現代社会と専門職      | 13 非行            |
| 6 専門職集団の役割      | 14 高齢者問題         |
| 7 児童虐待          | 15 定期試験          |
| 8 家庭内暴力         |                  |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 岩上真珠他編 『ソーシャルワーカーのための社会学』（有斐閣）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、平常点 50 %

60158  
心理学Ⅰ

S 梶尾順子

〔授業題目〕 心理学の基礎的知見を概観

〔概要〕 心理学は、人間の行動を支配する法則を発見するという、人間理解の科学である。本講義では、心理学の基礎的知識を学習し、思考、認知、情動、感覚など人間とはどのようなものであるかについて学ぶ。

〔到達目標〕 「科学的に人間を理解するとはどうゆうことか」について学ぶことを目標とする。

〔授業計画〕

- |               |           |                 |
|---------------|-----------|-----------------|
| 1 心理学とは       | 6 学習と条件付け | 11 知能の測定        |
| 2 心理学の研究手法    | 7 行動変容の過程 | 12 動機付けと情動      |
| 3 心理学の発展と歴史   | 8 記憶の過程   | 13 欲求とフラストレーション |
| 4 心理学のさまざまな分野 | 9 言語の機能   | 14 個人と集団        |
| 5 感覚と知覚       | 10 知能と創造性 | 15 定期試験         |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

60159  
心理学Ⅱ

W 茂木 洋

〔授業題目〕 人間理解の理論と技法

〔概要〕 人間を理解するために必要な心理学理論の基礎を学ぶとともに、人間理解のための技法としての心理学的測定法およびアセスメントの概要についても学習する。さらに、心理学的援助技法について、代表的な心理療法を取り上げて紹介していく。

〔到達目標〕 人間理解と援助の理論が多様であることの意義について理解する。

〔授業計画〕

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1 人間理解の基礎理論①実験心理学 | 9 心理学的援助の方法①力動的な心理療法 |
| 2 ②臨床心理学          | 10 ②認知行動療法           |
| 3 心の障害①発達障害       | 11 ③クライエント中心療法       |
| 4 ②精神障害           | 12 ④イメージ療法           |
| 5 人間理解の技法①知能検査    | 13 ⑤日本の心理療法          |
| 6 ②質問紙法           | 14 ⑥集団心理療法           |
| 7 ③投影法            | 15 定期試験              |
| 8 ④作業検査法          |                      |

〔テキスト〕 適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕 授業中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

## 60159

### 心理学Ⅱ

W 栃尾順子

〔授業題目〕 実践的な場面での心理学の適用

〔概要〕 心理学Ⅰに引き続き、心理学的理論の基礎的な知識を学習するとともに、心理学の知見が発達過程の理解や適応上の問題にどのように応用されてきたか検討する。

〔到達目標〕 身近な問題を心理学的な観点から捉えなおすことによって、学習した事柄を日常生活に生かすことができるようにしたい。

〔授業計画〕

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1 パーソナリティの理論①類型論    | 9 ストレスと心理的障害②心理臨床の対象 |
| 2 パーソナリティの理論②特性論    | 10 異常心理学             |
| 3 パーソナリティの形成        | 11 心理的援助の実際          |
| 4 パーソナリティの測定        | 12 心理的援助の技法①個人療法     |
| 5 乳幼児の心理            | 13 心理的援助の技法②集団療法     |
| 6 青年期の心理            | 14 現代社会と臨床的問題        |
| 7 青年期心性と危機          | 15 定期試験              |
| 8 ストレスと心理的障害①こころの健康 |                      |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

## 60160

### 哲学Ⅰ

S 竹中利彦

〔授業題目〕 心と体の関係から哲学を学ぶ

〔概要〕 哲学が扱う領域は広く、その諸問題は相互に関わりあっている。この講義では、特に「心身問題」一心と体の関係に注目し、主に近代以降の思想を概観して、哲学的な考え方への入門としたい。

〔到達目標〕 「心身問題」を通して、哲学の提起するさまざまな問題と、その人間観および世界観を学ぶ。

〔授業計画〕

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| 1 心身問題—人間と世界は何から出来ているか | 9 唯物論—人間＝機械？（2）    |
| 2 古代から中世にかけて           | 10 唯物論—人間＝機械？（3）   |
| 3 心身二元論—心と体の区別（1）      | 11 観念論—すべては心の産物？   |
| 4 心身二元論—心と体の区別（2）      | 12 現代の心身問題（1）      |
| 5 心身二元論—心と体の区別（3）      | 13 現代の心身問題（2）      |
| 6 心身二元論—心と体の区別（4）      | 14 まとめと定期試験についての予告 |
| 7 心身二元論—心と体の区別（5）      | 15 定期試験            |
| 8 唯物論—人間＝機械？（1）        |                    |

〔テキスト〕 プリントを配布します。

〔参考文献〕 小林道夫編『哲学の歴史』第5巻（中央公論新社）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

## 60161

### 哲学Ⅱ

W 木村俊彦

〔授業題目〕 思索と人生

〔概要〕 本講義は、受講者が現代社会において生じている諸現象や自らの人生において直面した問題の原因や解決策を導き出すために、主として西洋哲学において哲学者たちがそれらの問題についてどのように考えてきたのかを学ぶとともに、自分なりの思想をまとめることができるようになることを目標とする。そのため、比較的一般的なテーマとして捉えられるもの、例えば「真理とは何か」「善悪の区別」「心と身体の関係」「運命と自由意志」「実在と認識」「死とは何か」といったテーマを中心にして、授業計画を作成する。授業形態は、講義を中心としているが、受講者の考えや理解を把握するために、テーマに従って質疑応答をするとともに論理的な思考を学ぶという観点から西洋哲学を解説する。

〔到達目標〕 上記の事項を自から思考できるようにする。

〔授業計画〕

- |   |                    |    |                  |
|---|--------------------|----|------------------|
| 1 | オントース・オンについて       | 9  | 和辻哲郎における「縁起」の解釈  |
| 2 | ト・アガトーンについて        | 10 | セネカの人生論とストア思想    |
| 3 | デカルトにおける霊と肉        | 11 | エックハルトの神秘思想      |
| 4 | カントにおける自由と道德の問題    | 12 | ジェイムズにおける厭世主義的宗教 |
| 5 | 新カント派の哲学的人間学       | 13 | ドイツにおける浪漫主義と宗教   |
| 6 | 西田幾多郎における哲学と宗教     | 14 | ヤスパースの理解した仏教     |
| 7 | 「場所的論理と宗教的世界観」について | 15 | 定期試験             |
| 8 | 矢島倫理学における空の哲学      |    |                  |

〔テキスト〕 広瀬京一郎著『西洋倫理思想史』（学陽書房）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験の成績 100 %

## 60162

### 社会福祉概論

S / W 名和月之介

〔授業題目〕 社会福祉の基本的考え方

〔概要〕 社会福祉について、基本的な概念・理論をふまえて、歴史的・社会的展開過程について考える。それと共に、今日社会福祉の直面する問題について、要因を分析し、対策を検討する。

〔到達目標〕 社会福祉の基本的な用語・考え方を理解すると共に、その歴史的・社会的展開過程をふまえて、現代社会福祉問題についての知見を得る。

〔授業計画〕

- |   |                  |    |                  |
|---|------------------|----|------------------|
| 1 | 社会福祉とは何か         | 9  | 〃 (2)            |
| 2 | 社会福祉の理念 (1)      | 10 | 社会福祉の実施主体        |
| 3 | 〃 (2)            | 11 | 社会福祉の分野 (1) 生活保護 |
| 4 | 社会福祉の歴史 (1) イギリス | 12 | 〃 (2) 児童家庭福祉     |
| 5 | 〃 (2) アメリカ       | 13 | 〃 (3) 障がい者福祉     |
| 6 | 〃 (3) 日本近代まで     | 14 | 〃 (4) 高齢者福祉      |
| 7 | 〃 (4) 日本近現代      | 15 | 定期試験             |
| 8 | 社会福祉の対象 (1)      |    |                  |

〔テキスト〕 菊池正治・清水教恵編著『基礎からはじめる社会福祉論』（ミネルヴァ書房）を主として適宜プリント配布

〔参考文献〕 中垣昌美『社会福祉学原論』（さんえい出版）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、出席等平常点 30 %

## 60163

### 社会福祉行政

S / W 寺中直人

〔授業題目〕 地方分権と社会福祉行政

〔概要〕 国民の生存権を具体化していく活動である社会福祉行政を、地方分権や構造改革などの新しい流れの中で位置づけなおす。講義を中心としているが、適宜、理解把握のための質疑応答や小テストを行う。

〔到達目標〕 生存権の意味、地方分権における社会福祉行政のあり方を把握するとともに、活動の具体的な仕組みやその担い手の位置づけ・専門性を探る。

〔授業計画〕

- |                |               |                 |
|----------------|---------------|-----------------|
| 1 オリエンテーリング    | 6 補助の仕組みとその効果 | 11 地方分権と福祉行政の再編 |
| 2 社会福祉の法体系     | 7 小テスト        | 12 地方財政からみた福祉   |
| 3 基本的人権と福祉     | 8 地方自治とは何か    | 13 社会福祉基礎構造改革   |
| 4 福祉の権利と行政救済制度 | 9 地方自治と福祉行政   | 14 福祉サービスの提供機関  |
| 5 生活保護行政       | 10 地方自治の歩み    | 15 定期試験とまとめ     |

〔テキスト〕 玉井金五、大森真紀編『社会政策を学ぶ人のために』（世界思想社）

〔参考文献〕 杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』（有斐閣選書）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、小レポート 20 %（最初の講義で詳しく述べるので、出席すること）

## 60164

### 児童福祉論

W 合田 誠

〔概要〕 日本の子どもの現状と課題を概説する。基礎となる児童福祉の基本知識について可能な限り事例を引用し解説したい。また、適宜 VTR の視聴や関連資料を配布することで講義内容を深めたいと考えている。

〔到達目標〕 児童福祉問題に関心を持ってもらい、将来的に児童福祉サービス関連の仕事等に携るきっかけ作りの一助になればと考える。

〔授業計画〕

- |                                 |                               |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1 児童福祉入門①・社会福祉と児童福祉             | 9 児童福祉サービス②・児童福祉施設Ⅱ           |
| 2 児童福祉入門②・児童福祉の基本理念             | 10 児童福祉サービス③・在宅における児童福祉サービス   |
| 3 児童福祉法の概要①・「子どもの権利条約」との関連      | 11 児童福祉問題①・保育問題               |
| 4 児童福祉法の概要②・児童福祉法の関連法律          | 12 児童福祉問題②・養護問題               |
| 5 児童福祉の歴史①・欧米のあゆみ               | 13 児童福祉問題③・障害児問題              |
| 6 児童福祉の歴史②・日本のあゆみ               | 14 児童福祉のマンパワー・社会福祉士、児童指導員、保育士 |
| 7 児童福祉の行政機関・厚生労働省、児童福祉審議会、児童相談所 | 15 定期試験                       |
| 8 児童福祉サービス①・児童福祉施設Ⅰ             |                               |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 授業中に適宜示す

〔授業形態〕 講義・VTR

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、レポート等の平常の成績 30 %、平常点 10 %

## 60164 児童福祉論

S / W 西木貴美子

〔授業題目〕 事例で学び実践に生かす児童福祉

〔授業の概要及び到達目標〕 社会福祉主事任用資格取得のための本講義では、児童福祉の理念及び今日的意義について、また現代社会における子ども自身や子育て家庭が抱えている課題を把握し、各種児童福祉サービスについて理解を深め、児童福祉に関する問題意識を高めることを目標とする。

〔授業計画〕

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション・児童福祉のニーズについて  | 9 児童虐待の予防と対応について            |
| 2 現代社会と児童家庭を取り巻く環境の変化について | 10 保護を要する子どものための福祉サービスについて  |
| 3 少子社会の現状とその要因について        | 11 里親制度について                 |
| 4 児童福祉の基本理念と子どもの権利保障について  | 12 非行児童・情緒障害児のための福祉サービスについて |
| 5 児童福祉の法制度と実施体制について       | 13 障害児のための福祉サービスについて        |
| 6 母子保健サービスについて            | 14 ひとり親家庭のための福祉サービスについて     |
| 7 子どもの健全育成サービスについて        | 15 定期試験                     |
| 8 保育サービス・子育て支援サービスについて    |                             |

〔テキスト〕 テキストは使用しない。適宜資料を配布する。

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、小テスト（レポート）等 40 %

## 60165 老人福祉論

S 武田盛夫

〔概要〕 超高齢社会を迎えた我が国において、高齢者に関する制度・政策はこれからの社会のあり方を考える上で重要な検討課題となっている。本講義では、高齢者とは誰で、どのような生活課題を抱えているかという基本的なことから現在の制度・政策を学習すると共に、それが皆さんにどのような影響を与えるかについて学ぶ。

〔到達目標〕 高齢者が抱える生活課題について理解し、高齢者福祉に関する制度・政策の知識を習得することを目標とする。

〔授業計画〕

- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 介護保険制度（目的と理念）   |
| 2 超高齢社会を迎えて | 10 介護保険制度（運営と手続き） |
| 3 高齢者の生活実態  | 11 在宅福祉サービス       |
| 4 高齢者の介護問題  | 12 施設福祉サービス       |
| 5 高齢者福祉の歴史  | 13 民間シルバーサービス     |
| 6 年金制度      | 14 高齢者援助技術        |
| 7 老人福祉法     | 15 定期試験           |
| 8 高齢者保健制度   |                   |

〔テキスト〕 牧洋子・和田謙一郎編著『老人福祉論』（健帛社）

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

## 60165 老人福祉論

S / W 玉置好徳

〔授業題目〕 老人福祉の意義とサービスの現状

〔概要〕 老人福祉の意義の理解を基礎として、各種老人福祉サービスの現状と社会的意義について学ぶ。

〔到達目標〕 老人福祉の基本概念、取り巻く状況、歴史的展開、仕組みと運営、支える人たち、援助方法などについて学ぶ。

〔授業計画〕

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1 高齢者の特性              | 9 高齢者を支援する組織と役割 |
| 2 少子高齢社会と高齢者          | 10 専門職の役割と実際    |
| 3 高齢者の歴史              | 11 介護の概念や対象     |
| 4 高齢者保健福祉の発展と法体系      | 12 介護過程         |
| 5 高齢者支援の関係法規          | 13 介護各論①        |
| 6 介護保険法の概要            | 14 介護各論②        |
| 7 介護保険のサービス体系         | 15 試験とまとめ       |
| 8 高齢者支援の方法と実際（事例検討など） |                 |

〔テキスト〕 川廷宗之・高橋信幸・和気純子編『高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規）

〔参考文献〕 講義中に適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験（70 %）、小レポート（10 %）、平常点（受講態度等）（20 %）

**60165**  
**老人福祉論**

S / W 広瀬美千代

- 〔授業題目〕 老人福祉論の基礎  
 〔概要〕 急速に進展した高齢化・少子化の中で介護というキーワードから老人福祉への関心も高まっている。生活者としての人間が学ぶべき学問として、理念や知識を基に身近な問題を解決する視点を学ぶ。  
 〔到達目標〕 高齢者、高齢期及び高齢者の権利を理解し、制度、理念、支援に関する知識を得て福祉の視点を習得し、身近な問題について考える力を養う。  
 〔授業計画〕
- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1 高齢者社会の到来と社会の対応  | 9 高齢者の経済保障制度         |
| 2 高齢者の生活とニーズの現状   | 10 民間活動とシルバーサービス     |
| 3 高齢者の身体的特性       | 11 相談援助活動とケアマネジメント   |
| 4 高齢者の心理特性と精神障害   | 12 成年後見制度と地域福祉権利擁護事業 |
| 5 高齢者福祉の発展        | 13 高齢者の終末ケア          |
| 6 高齢者の医療の確保に関する法律 | 14 高齢者の事例            |
| 7 介護保険制度          | 15 まとめと定期試験          |
| 8 老人福祉法と老人福祉サービス  |                      |
- 〔テキスト〕 大島侑監修 杉本敏夫編著『シリーズ・はじめて学ぶ社会福祉6・高齢者福祉論』（ミネルヴァ書房）  
 〔参考文献〕 講義中適宜指示する  
 〔授業形態〕 講義・発表・討論  
 〔成績評価の方法〕 定期試験 80%、授業参加（発表・討論） 20%

**60166**  
**障害者福祉（集中講義）**

S 大西敏浩

- 〔授業題目〕 障がい者の理解と支援  
 〔概要〕 「障がい者」の抱えている悩みや問題の多くは、実は私たちの悩みや問題でもある。本講義では、障がい者の置かれている現状を知り、私たちが何ができるのかを考えていく。  
 〔到達目標〕 聴覚障がい学生へのサポートとしてのノートテイクの技術など、すぐに始められる支援の方法も学んでいく。  
 〔授業計画〕
- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 1 「障がい」とは何か        | 9 聴覚障がい    |
| 2 身体障害者補助犬         | 10 内部障がい   |
| 3 「障がい」の理解～絵本を通して～ | 11 知的障がい   |
| 4 ノートテイクの基礎知識      | 12 精神障がい   |
| 5 障がい者の数と種類        | 13 障がい者と家族 |
| 6 肢体不自由            | 14 重複障がい   |
| 7 視覚障がい            | 15 まとめ     |
| 8 ノートテイクの基礎技術      |            |
- 〔テキスト〕 なし  
 〔参考文献〕 なし  
 〔授業形態〕 講義・演習・実習  
 〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート 60%、平常点 40%

**60167**  
**レクリエーション論**

S 奥野孝昭

- 〔授業題目〕 レクリエーションの基礎理論  
 〔概要〕 他者にレクリエーション活動を通じ、「楽しさ」を与えていく上で必要なレクリエーションの基礎理論を学ぶ。また活動を組織的に行うためにも支援論及び事業論についても学習する。  
 〔到達目標〕 現代社会における「ゆとり」のなさから、様々な社会問題が発生していることを理解し、レクリエーション活動を有効に活用できるようになる。  
 〔授業計画〕
- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 レクリエーションの基礎理論① | 9 レクリエーション事業論①  |
| 2 レクリエーションの基礎理論② | 10 レクリエーション事業論② |
| 3 レクリエーションの基礎理論③ | 11 レクリエーション事業論③ |
| 4 レクリエーションの基礎理論④ | 12 レクリエーション事業論④ |
| 5 レクリエーションの基礎理論⑤ | 13 レクリエーション事業論⑤ |
| 6 レクリエーション支援論①   | 14 レクリエーション事業論⑥ |
| 7 レクリエーション支援論②   | 15 定期試験及びまとめ    |
| 8 レクリエーション支援論③   |                 |
- 〔テキスト〕 浅野祥三他、『レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～』、(財)日本レクリエーション協会  
 〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介する。  
 〔授業形態〕 講義  
 〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、平常点（レポート点） 50%

60167

レクリエーション論

W 大西敏浩

〔授業題目〕レクリエーションの基礎理論

〔概要〕他者にレクリエーション活動を通じ、「楽しさ」を与えていく上で必要なレクリエーションの基礎理論を学ぶ。また活動を組織的に行うためにも支援論及び事業論についても学習する。

〔到達目標〕現代社会における「ゆとり」のなさから、様々な社会問題が発生していることを理解し、レクリエーション活動を有効に活用できるようになる。

〔授業計画〕

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 レクリエーションの基礎理論① | 9 レクリエーション事業論①  |
| 2 レクリエーションの基礎理論② | 10 レクリエーション事業論② |
| 3 レクリエーションの基礎理論③ | 11 レクリエーション事業論③ |
| 4 レクリエーションの基礎理論④ | 12 レクリエーション事業論④ |
| 5 レクリエーションの基礎理論⑤ | 13 レクリエーション事業論⑤ |
| 6 レクリエーション支援論①   | 14 レクリエーション事業論⑥ |
| 7 レクリエーション支援論②   | 15 定期試験及びまとめ    |
| 8 レクリエーション支援論③   |                 |

〔テキスト〕浅野祥三他著『レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～』（(財)日本レクリエーション協会)

〔参考文献〕講義の際、適宜紹介する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、平常点（レポート点）50 %

60169

スポーツ I

S

伊達由実 奥野暢通 東 隆史 越智祐光 木本泰洋  
柴山 慧 野中耕次

〔授業題目〕スポーツ実技

〔概要〕複数開講されるスポーツ種目から、学生がそれぞれの体力・興味・個性に応じた種目を選択し、種目特性に根ざした運動の楽しさを体験できるようゲームの実施を中心にした授業計画を作成する。授業形式は実技を中心とするが、他者との協力を促したりチーム作りを進めるためにグループ学習を適宜取り入れる。なお、一人の教員が一種目を担当する。尚、実施種目、人数制限については掲示して告知する。

〔到達目標〕本講義は、スポーツ実践を通して受講者の健康増進を促すとともに、生涯に亘って主体的にスポーツを楽しむために必要な知識・技能・態度・行動力を育成することを目標とする。

〔授業計画〕

- |                                 |                                  |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 種目選択およびグループ分け                 | 9 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（4）  |
| 2 各種目の基本練習とためしのゲーム（1）           | 10 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（5） |
| 3 各種目の基本練習とためしのゲーム（2）           | 11 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（6） |
| 4 各種目の基本練習とためしのゲーム（3）           | 12 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（7） |
| 5 各種目の基本練習とためしのゲーム（4）           | 13 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（8） |
| 6 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（1） | 14 最終ゲームとまとめ                     |
| 7 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（2） |                                  |
| 8 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（3） |                                  |

〔テキスト〕

〔参考文献〕

〔授業形態〕実習

〔成績評価の方法〕技能点 40 %、平常点 60 %

60170  
スポーツⅡ

W

伊達由実 奥野暢通 東 隆史 越智祐光 木本泰洋  
柴山 慧 野中耕次

〔授業題目〕 スポーツ実技

〔概要〕 複数開講されるスポーツ種目から、学生がそれぞれの体力・興味・個性に応じた種目を選択し、種目特性に根ざした運動の楽しさを体験できるようゲームの実施を中心にした授業計画を作成する。授業形式は実技を中心とするが、他者との協力を促したりチーム作りを進めるためにグループ学習を適宜取り入れる。なお、一人の教員が一種目を担当する。尚、実施種目、人数制限については掲示して告知する。

〔到達目標〕 本講義はスポーツⅠと同様に、スポーツ実践を通して受講者の健康増進を促すとともに、生涯に亘って主体的にスポーツを楽しむために必要な知識・技能・態度・行動力を育成することを目標として実施する。

〔授業計画〕

- |                                 |                                  |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 種目選択およびグループ分け                 | 9 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（4）  |
| 2 各種目の基本練習とためしのゲーム（1）           | 10 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（5） |
| 3 各種目の基本練習とためしのゲーム（2）           | 11 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（6） |
| 4 各種目の基本練習とためしのゲーム（3）           | 12 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（7） |
| 5 各種目の基本練習とためしのゲーム（4）           | 13 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（8） |
| 6 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（1） | 14 最終ゲームとまとめ                     |
| 7 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（2） |                                  |
| 8 各種目の応用練習（種目によってはチーム練習）とゲーム（3） |                                  |

〔テキスト〕

〔参考文献〕

〔授業形態〕 実習

〔成績評価の方法〕 技能点 40 %、平常点 60 %

60171  
体育講義

W

伊達由実

〔授業題目〕 人間とスポーツ

〔概要〕 人間とスポーツ、運動文化について学習し、自分にとっての運動生活のあり方について考える。また、種々の運動技能の発展過程や、個人における運動学習の過程についても理解を深める。

〔到達目標〕 健康・体力・スポーツなどに関係する情報が氾濫する中で、そこから正しい選択によって有益な情報をつかまえる力を養う。

〔授業計画〕

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーションスポーツ・運動文化の歩み（1） | 8 運動技術の進歩（4）         |
| 2 スポーツ・運動文化の歩み（2）          | 9 現代生活と運動文化・スポーツ（1）  |
| 3 スポーツ・運動文化の歩み（3）          | 10 現代生活と運動文化・スポーツ（2） |
| 4 スポーツ・運動文化の歩み（4）          | 11 現代生活と運動文化・スポーツ（3） |
| 5 運動技術の進歩（1）               | 12 現代生活と運動文化・スポーツ（4） |
| 6 運動技術の進歩（2）               | 13 発育発達と運動文化・スポーツ（1） |
| 7 運動技術の進歩（3）               | 14 発育発達と運動文化・スポーツ（2） |
|                            | 15 試験とまとめ            |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 授業内で適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義・対話・討論

〔成績評価の方法〕 小レポート 30 %、授業参加 30 %、試験 40 %

60181

共通教育研究 文章表現

S 今井 進

〔授業題目〕文章表現の基本的技能

〔概要〕本講座では、文章表現の様々な基礎的な技法について理解し、文章表現力の向上を目指す。

〔到達目標〕基本的な国語の知識（表記、文法、表現）を身につけ、中心点のはっきりした、簡潔な文章が書けることをねらいとする。

〔授業計画〕

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1 文章を書く前に         | 9 文章の評価        |
| 2 文章の心得           | 10 小論文・作文作成（1） |
| 3 文章を書く手順         | 11 小論文・作文作成（2） |
| 4 題材選びについて        | 12 小論文・作文作成（3） |
| 5 主題を決めて、作文作成     | 13 小論文・作文作成（4） |
| 6 筆順、送りがな、句読点の打ち方 | 14 小論文・作文作成（5） |
| 7 原稿用紙の使い方        | 15 定期試験        |
| 8 表現と構成           |                |

〔テキスト〕講義中指示する

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕小論文・作文 60 %、定期試験 40 %

60182

共通教育研究 特別支援教育概論

S 富永光昭

〔授業題目〕特別支援教育の基礎と展望

〔概要〕現在、通常学級担当教師にも特別支援教育の知識が求められている。本講義では、障害のある子ども達の世界や日本の教育の動向について講義するとともに、発達障害児への指導法や障害理解教育、福祉等との連携についても言及する。

〔到達目標〕・世界と日本の障害のある子どもへの教育の違い、最新の障がいの捉え方を理解する。・通常学校における障害理解教育について理解する。・特別支援教育と福祉等との関係を理解する。

〔授業計画〕

- |  |                        |
|--|------------------------|
| 1 世界の特別なニーズ教育と日本の特別支援教育の動向                                     | 4 遊びの指導、生活単元学習とは       |
| 2 障害に関わるビデオ視聴最新の障害（WHOのICF）の捉え方、肢体不自由、知的障害、視覚障害、発達障害など各種障害の捉え方 | 5 障害理解教育、交流・共同学習のすすめ方  |
| 3 障害に関わるビデオ視聴  | 6 発達障害の子どもたちのユニバーサルな授業 |
|  | 7 特別支援教育と福祉等隣接領域       |
|  | 8 定期試験                 |

〔テキスト〕富永光昭・平賀健太郎編著、『特別支援教育の現状・課題・未来』、ミネルヴァ書房、2009年3月

〔参考文献〕富永光昭著、『特別支援教育の授業づくり』、ミネルヴァ書房、2006年

〔授業形態〕講義・双方向授業・備考 VTR、DVD 使用、一部パワーポイント使用

〔成績評価の方法〕定期試験（60 %）、平常点（40 %）

60183

共通教育研究 都市デザイン史

W 三谷幸司

〔授業題目〕都市デザイン史

〔概要〕何が都市の発生の原因となったのか、何が都市を成長させ他の都市を衰退させるのか、何が都市の城郭・寺院・摩天楼・スラムなどを作り上げたのか？多様な都市デザインの事例を通して都市構成の原理を考察する。

〔到達目標〕現代都市を構成する諸原理を認識することを目指す。

〔授業計画〕

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション    | 8 レポートのプレゼンテーション  |
| 2 西洋古代都市デザイン史① | 9 西洋近代都市デザイン史①    |
| 3 西洋古代都市デザイン史② | 10 西洋近代都市デザイン史②   |
| 4 西洋中世都市デザイン史① | 11 イスラム都市デザイン史    |
| 5 西洋中世都市デザイン史② | 12 アジア都市デザイン史—北京  |
| 6 西洋近世都市デザイン史① | 13 アジア都市デザイン史—日本① |
| 7 西洋近世都市デザイン史② | 14 アジア都市デザイン史—日本② |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義・発表

〔成績評価の方法〕レポート 50 %、ミニレポート 50 %

60185

共通教育研究 裁判員制度と刑事裁判 W 葛井久雄

〔授業題目〕 裁判員制度と刑事裁判

〔概要〕 今年5月から開始される裁判員制度の実務的な観点からの考察と、実際の刑事裁判を紹介しながら裁判員の思考方法を検討する。

〔到達目標〕 事実認定の正確性量刑の相当性

〔授業計画〕

1 裁判員法の概略	6	〃	11	〃
2 基本構造	7	〃	12	〃
3 裁判員の選任	8	〃	13	〃
4 参加手続	9	〃	14	〃
5 具体的事例	10	〃	15	裁判員としての自覚

〔テキスト〕 池田修著『解説裁判員法』（弘文堂）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

60191

キャリア研究 産業・企業研究 S/W 塚原昭人

〔授業題目〕 就職活動を控えての専門・教養・実務について学ぶ

〔概要〕・〔到達目標〕 本講義の目標は、学生の就職活動および入社後において有益であると見なされる、様々な実務的技能および知識を、多領域にわたってバックアップすることにある。具体的には、企業人になるための予備的知識を就学中に修得すること、企業において求められる社会人としてのマナー等の修得、常識的な社会経済に関する知識の修得、ユビキタス社会において求められる情報リテラシーの確保を可能にするため授業計画を作成する。こうした講義を選択履修することにより、学生は社会人としての基礎能力の確保を目指す。授業形態は主として講義を中心とする。

〔授業計画〕

1 産業・企業研究とは	7 企業の社会的責任（CSR）	13 ベンチャーとニッチ・トップ
2 日本経済の現況	8 経営管理とは	14 企業とイノベーション
3 産業構造の変遷	9 経営戦略とは	15 定期試験
4 企業とは	10 市場とマーケティング	
5 企業の組織	11 マーケティング戦略	
6 企業の目的と役割	12 マーケティング・ツール	

〔テキスト〕 適時、プリント・資料等を配布する。

〔参考文献〕 講義の中で指示する。

〔授業形態〕 講義（双方向授業を指針とする。）

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常成績 20 %

60193

キャリア研究 キャリアデザインング S/W 森山廣美 前川昌子

〔授業題目〕 ライフプランとキャリアデザインを描く

〔概要〕 日本経済・社会構造が変化する中で、この科目は「自分らしい生き方」を設計することを目標とする。卒業後の職業生活をいきいきと豊かに過ごすには、今何をすべきかについても考えていく。(この科目は「初年次教育」と平行して学ぶので、大学・短大ともに1・2セメスターの履修が望ましい)

〔到達目標〕 職業観と人生観を確立し、自主的・自立的に進路選択ができる。

〔授業計画〕

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 働く意味を考える              | 9 自分探しをする(自己適正を認識する)  |
| 2 日本経済・社会構造の変化          | 10 キャリア・アンカーを見つける     |
| 3 大学生活の過ごし方             | 11 ライフプランとキャリアデザインを描く |
| 4 日本人の就業意識              | 12 自己啓発(資格取得、インターシップ) |
| 5 多様な就業・雇用形態            | 13 就職活動のプロセスを知る       |
| 6 業種・職種の研究              | 14 キャリアモデル            |
| 7 求められる職業上の能力           | 15 定期試験               |
| 8 コミュニケーション能力とプレゼンテーション |                       |

〔テキスト〕 「初年次教育」使用の「Caree Design Note」

〔参考文献〕 NHK『ワーキングプア』取材班編『ワーキングプア』、ポプラ社 2007年  
 椋田直子訳『ハードワーク』、東洋経済新報社、2005年  
 金井壽宏著『キャリア・アンカー』、白桃書房、2004年  
 谷内篤博著『大学生の職業意識とキャリア教育』、勁草書房、2005年

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 平常点(毎回講義の後にレポートを書く)60%、定期試験40%

60194

キャリア研究 日本経済の常識 S 中原隆幸

〔授業題目〕 教養としての経済的常識

〔概要〕 近年社会人の基礎的教養として、日々生じている「経済事象」を理解していることが求められています。本講義ではきわめて常識的なレベルでの経済学理論を易しく解説します。

〔到達目標〕 日本経済新聞の内容を大まかに理解できる様にする。

〔授業計画〕

- |                                  |                            |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 「経済」の見方                        | 8 国内経済における政府の役割 (1)        |
| 2 マクロ経済：1つの国の経済の中身はどのようなものか? (1) | 9 " (2)                    |
| 3 " (2)                          | 10 国内経済における企業の役割 (1)       |
| 4 ミクロ経済：人間の経済行動を決めているのは何か (1)    | 11 " (2)                   |
| 5 " (2)                          | 12 外国とモノのやりとり：貿易と替為ノート (1) |
| 6 経済を見るモノサシ：GDP統計                | 13 " (2)                   |
| 7 ストックとフローの概念を学ぶ                 | 14 金融市場の働き：株式、国債、社債とは何か    |
|                                  | 15 定期試験                    |

〔テキスト〕 坪井賢一、『むちゃくちゃわかるよ経済学』、ダイヤモンド社

〔参考文献〕 日本経済新聞

〔授業形態〕 講義・対話

〔成績評価の方法〕 定期試験100%

60195

キャリア研究 社会人教養（2人リレー） W 須原祥二 中原隆幸

〔授業題目〕 政治・経済・歴史を学ぶ

〔概要〕 社会人には様々な基礎的教養が求められます。特に自国の社会・政治・経済・歴史・文化についての基礎的知識の修得はビジネスマンの必須条件です。本講義ではこれらの内容をリレー形式で易しく解説。

〔到達目標〕 社会人に必須の基礎的教養を社会・政治・経済・文化・歴史の各領域において修得する。

〔授業計画〕

- |                     |                               |
|---------------------|-------------------------------|
| 1 原始・古代の歴史          | 9 社会の諸問題（2）：人間関係の変化           |
| 2 中世の歴史             | 10 経済の諸問題（1）：働き方の変化           |
| 3 近世の歴史             | 11 経済の諸問題（2）：格差社会の現状          |
| 4 近現代の歴史①           | 12 政治の諸問題（1）：財政は黒字になるのか？      |
| 5 近現代の歴史②           | 13 政治の諸問題（2）：自治体の地方分権は実現されるか？ |
| 6 中間試験              | 14 経済と政治はどのようにつながっているのか？      |
| 7 社会・経済・政治とは何か      | 15 定期試験およびまとめ                 |
| 8 社会の諸問題（1）：家族関係の変化 |                               |

〔テキスト〕 中原分…吉本佳生、『出社が楽しい経済学』、NHK 出版。  
須原はプリントを配布する。

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

60196

キャリア研究 情報処理演習応用 S 東 隆史

〔授業題目〕 プログラミングの基礎を理解する

〔概要〕 本授業は、Visual Basic.NET を用いて、Windows アプリケーションを作成し、プログラミングの基礎知識を習得する。なお、受講者人数には制限がある（24名以下）。

〔到達目標〕 シンプルかつ実用的なアプリケーションを作成しながら、プログラミングで使用する基礎的な構文を理解する。

〔授業計画〕

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 1 Visual Basic.NET の概要 | 9 条件分岐（2）      |
| 2 プログラム作成の流れ           | 10 配列          |
| 3 コントロール（1）            | 11 繰り返し処理（1）   |
| 4 コントロール（2）            | 12 繰り返し処理（2）   |
| 5 定数と変数                | 13 アプリケーションの作成 |
| 6 インプットボックスとメッセージボックス  | 14 アプリケーションの作成 |
| 7 演算子                  | 15 定期試験        |
| 8 条件分岐（1）              |                |

〔テキスト〕 プリントを配布する

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・実習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、平常点 40 %

60196

キャリア研究 情報処理演習応用 W 斎藤敏之

〔授業題目〕 プレゼンテーションスキルの養成

〔概要〕 プレゼンテーションとは、聞き手に対して情報を提供することにより、聞き手の判断を助けたり、促したりすることである。本授業では、コンピュータソフト（MS Power Point）を用いて、視覚的に効果のあるプレゼンテーションをするための技術を習得する。なお演習の性格上、受講者人数に制限がある（25人未満）

〔到達目標〕 スライドを活用しながら聞き手に自分の考えを伝えるためのスキルを身につける。

〔授業計画〕

- |               |                  |                   |
|---------------|------------------|-------------------|
| 1 概論          | 7 イラストを含んだスライド   | 13 発表の準備とスライド作成 1 |
| 2 チャート作成 1    | 8 発表練習とスライド作成 1  |                   |
| 3 チャート作成 2    | 9 発表練習とスライド作成 2  | 14 発表の準備とスライド作成 2 |
| 4 グラフを含んだスライド | 10 発表練習とスライド作成 3 |                   |
| 5 表を含んだスライド   | 11 発表練習とスライド作成 4 | 15 スライドを用いた発表     |
| 6 アニメーション     | 12 発表練習とスライド作成 5 |                   |

〔テキスト〕 なし（プリント使用）

〔参考文献〕 『説得できるプレゼンの鉄則』 永山嘉昭（日経 BP 社）

〔授業形態〕 演習・発表

〔成績評価の方法〕 提出物（60 %）、発表（40 %）

## 60196

### キャリア研究 情報処理演習応用 S 坂本示洋

〔概要〕 今日の社会ではインターネット、中でも WWW が生活の重要な部分を占めている。情報発信演習 A では、Web ページの作成を通してその WWW の仕組み、特にその基礎となる HTML と CSS を理解し、自分なりの活用の可能性も考えてもらいたい。

〔到達目標〕 HTML と CSS を駆使して見栄えの良い Web サイトを構築できるようになる事。

〔授業計画〕

- |                  |            |              |
|------------------|------------|--------------|
| 1 WWW と HTML の概要 | 6 テーブル (1) | 11 枠線とマージン   |
| 2 見出しと段落         | 7 テーブル (2) | 12 位置とサイズの指定 |
| 3 画像 (1)         | 8 CSS の基本  | 13 総合制作 (1)  |
| 4 画像 (2)         | 9 文字装飾     | 14 総合制作 (2)  |
| 5 リスト            | 10 背景      | 15 定期試験      |

〔テキスト〕 適宜プリントを配布

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 実習

〔成績評価の方法〕 提出物など平常点 50 %、定期試験 50 %

## 60197

### キャリア研究 キャリアマネジメント S/W 藤原徹三

〔授業題目〕 学生のキャリアマネジメント

〔概要〕 本講義の目標は、学生の就職活動および入社後において有益であるとみなされる、様々な実務的スキルおよび知識を、多領域にわたってバックアップすることにある。具体的には、企業人になるための予備的知識を就学中に修得すること、企業において求められる社会人としてのマナー等の修得、常識的な社会経済に関する知識の修得、ユビキタス社会において求められる情報リテラシーの確保を可能にするための授業計画を作成する。こうした講義を選択履修することにより、学生は社会人としての基礎能力の確保を目指す。

〔到達目標〕 主として2年生を対象とし、“働く意味”をしっかりと理解する。

〔授業計画〕

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1 オリエンテーション         | 8 キャリアデザイン～本当の自分を知る |
| 2 個人と社会             | 9 キャリアデザイン～自分のブランド力 |
| 3 社会の構造             | 10 キャリアデザイン～なりたい自分  |
| 4 企業社会の本質           | 11 働く理由①            |
| 5 企業の構造             | 12 働く理由②            |
| 6 個人が求められているもの      | 13 スローキャリア論         |
| 7 キャリアデザイン～GROW モデル | 14 まとめ              |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・簡単な演習

〔成績評価の方法〕 レポート 50 点、平常点 50 点

## 60198

### キャリア研究 キャリアゼミ S/W 鍋谷史郎&スタッフ

〔授業題目〕 就職活動の基本

〔概要〕 就職活動を目前に控えた学生が対象。キャリアコンサルタントの本田勝裕先生によるグループワークや、産業界から採用担当者やOB・OGをゲストに迎え、心構えと実戦的スキルを学ぶ。

〔到達目標〕 就職活動において、また社会人として求められるコミュニケーション力と自己表現力を身につける。

〔授業計画〕

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 オリエンテーション             | 企業フェアに参加しよう                |
| 2 就職活動の流れ               | 9 ビジネスマナー                  |
| 3 コミュニケーション力            | 10 採用試験                    |
| 4 自己分析—やる気探しと自分エンジン     | 11 プレゼンテーション能力             |
| 5 自己分析—性格検査と自己発見        | 12 面接—他人の意見を聞く力と自分の意見を伝える力 |
| 6 ビジネス社会を知る             | 13 合否のポイントと対策について          |
| 7 ビジネス社会を知る             | 14 総括                      |
| 8 ビジネス社会を知る—学外インターンシップ、 |                            |

〔テキスト〕 プリントを配布する。

〔参考文献〕 なし

〔授業形態〕 演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート 50 %、平常点等 50 %